



旅券の発給事務など新たな事務を加え、身近な地方振興局としてスタート（4月）



首都圏などの中央市場で評判の良いいわて野菜、生産量はグングン伸びました（8月）

祝 県北横断道開通 祝



県北横断道開通
祝賀協賛会
九戸村

県北内陸部と沿岸部を結ぶ県北横断道、地域活性化の大動脈として期待は大きい（10月）



久慈市の国家石油地下備蓄建設に伴う漁業補償交渉が合意に達し、建設に弾み（3月）



平泉800年特別大祭をはじめとする各種イベント開催や施設の充実により観光客は大幅に増加した

昭和61年(1986) 県勢ビッグテン

- 1 地域振興の拠点として地方振興局の設置をはじめ、30年ぶりの大幅な機構整備、行政の効率化を目指す行政改革の推進と県民サービスの充実に高まる期待
- 2 県北横断道、東北自動車道八戸線相次いで開通。一関ルートなど県単高速関連道、種山トンネル、大規模林道整備着々と進み、北上山系の壁への挑戦一段と加速
- 3 レタス、リンドウ、しいたけなど「いわてもの」中央市場で高い評価。水稲3年連続豊作もあり活気づく農山村
- 4 ビックプロジェクト久慈国家石油地下備蓄基地建設スタート県北沿岸地域の振興に大きな力
- 5 平泉800年特別大祭などのイベント開催や大型スキー場、盛岡手づくり村、船越家族旅行村など施設整備により観光客大幅増加
- 6 乳児死亡率が初めて全国平均を下回るなど地域医療体制充実。県営医療の中枢的機能を果たす新県立中央病院完成
- 7 本県漁業の歴史と未来を伝える県立水産科学館完成。サクラマス2,000ト計画本格化、3年連続サケ豊漁などつくり育てる漁業大きく展開
- 8 防災教育に一役、東北初の県立総合防災センター始動。盛岡西警察署開署などにより県民の安全を守る体制一層充実
- 9 アジア競技大会で本県出身選手活躍。県営武道館落成。岩手あしる国体に向けた施設整備が進むなどスポーツ振興にインパクト
- 10 総合的な高齢化対策に向けて、県高齢化対策推進会議及び高齢化対策室を設置、高齢化対策指針の策定。デイサービス施設などの整備、福祉の里整備事業のうち県立養護学校の建設着手など幅広い施策推進

数々の出来事や思い出を刻んで今年も残すところあとわずかです。地域住民の期待を集めて、30年ぶりの大幅な機構改革によりスタートした地方振興局。東北縦貫自動車道八戸線の開通。県単高速交通関連道8ルート12路線の完成第1号、県北横断道の開通など。沿岸部と内陸部を結ぶ基盤づ

くりは着実な進展を見せました。また、平泉800年特別大祭などの各種イベントや県内スキー場を訪れた観光客が大幅な増加を見せるなど明るい話題の多い1年でした。14年後に迫った21世紀に向けて、着実な歩み続ける本県にとって昭和62年が、素晴らしい年となることを願うものです。

き30億円を計上するなど、岩手の新時代にふさわしい予算編成となりました。サクラマスの稚魚放流事業による回帰魚が国内で初めて確認されたのもこのころです。

3月 17日久慈市の国家石油地下備蓄基地建設と新たな港湾整備計画に伴う、県と久慈市漁業協同組合の漁業補償交渉が合意に達しました。

県と市町村、民間企業などの力を合わせて、重度障害者の雇用の場確保を目指す県重度障害者等雇用推進研究委員会が発足したのは20日です。

22日、紫波郡都南村に移転新築される盛岡赤十字病院が着工、同日、県立水産高校の共同実習船「新りあす丸」が完成しました。

25日、安代町で開かれる第43回国体冬季大会スキー競技大会実行委員会が発足、国体本番に向けスタートしました。

19日に水沢市で発生した赤痢は、さらに近隣町村にまで広がりを見せ住民を不安がらせました。

4月 1日、大幅な機構改革により地方振興局がスタート。地域における拠点機関として、地域の特性を生かした活性化に大きな期待が集まりました。

広がる善意の輪、400cc献血も始まりました。

17日、本県漁業の歴史と未来を

伝える県立水産科学館が宮古市に18日には、県立総合防災センターが、矢巾町の県消防学校敷地内に完成しました。

22日、急速な円高に対応して、県は中小企業円高対策連絡会議を設置し、円高不況の救済に乗り出しました。

「地方振興局、住民の期待とともにスタート」

28日、久慈市半崎地区に国家石油地下備蓄基地の立地が決定し、今秋着工が確実となりました。

5月 1日、盛岡地域の地場産業振興の拠点となる盛岡手づくり村が完成しました。9日、北上川流域テクノポリス財団設立準備委員会が初会合、8月発足に向けてスタートを切りました。

12日、株新興製作所が会社更生法を申請、負債総額は190億円にもほり、県内最大の企業倒産となりました。

本県先端技術の推進に向けて県

バイオテクノロジー等先端技術協議会が発足し、産・学・官一体となったの指針策定へ動き出したのは、13日です。

6月 三陸鉄道は、開業2年目も2,000万円の黒字を計上。開業当時とまではいきませんが、納涼列車や披露宴列車などのアイデアで快走を続けました。

また、60年度決算で県立病院、電気事業もそれぞれ8億円余りの黒字を計上しました。

23日、郵政省のテレピア構想モデル都市として、早期事業開始

1月 おめでとう86年。例年になく暖かい新年を迎えた県内は、昨年を上回る初もうで客でにぎわい、また、雪の多いスキー場には県内外のスキーヤーがどっと繰り出し

華やかな年明けとなりました。本県の乳児死亡率が初めて全国平均を下回るという明るいニュースで今年も始まりました。11日、第4回いわて少年の船の

「県内のスキー場冬季観光のエースに」

参加団員420人が、輝く朝日をいっばいに浴びて横浜港を出港。13日には、322人の団員が大海原に広がる夢を乗せて第6回岩手青年の船が、そして30日には、第5回岩手婦人の船が431人の団員を乗せ大船渡港から研修に旅立ちました。

ラグビーのビックイベントで無

敵を誇った「鉄の軍団」、新日鉄釜石が、社会人大会準決勝で神戸製鋼に1トライ差で敗れ、8連覇を期待していた県民を残念がらせました。

2月 二戸市に進出が予定されていた東北ハーネス株の工場立地協定書の調印式が、13日に行われ11

月の操業に向け動き出しました。17日、西暦2000年の冬季五輪を目指す、オリンピック冬季競技大会盛岡招致委員会の事務所が盛岡市役所に開設されました。

新岩手県総合発展計画の3年目、基礎固めの年とされる61年度当初予算は、およそ4,811億3,700万円。前年度当初に比べて4.2%と低い伸び率となりました。

厳しい財政環境のもとで県版行革の目玉として設置される地方振興局の地域活性化事業調整費をはじめ新規事業は75事業、沿岸部と内陸部を結ぶ主要道路の8ルート12路線の整備として、60年度に続



県営医療の中核的役割を果たす新県立中央病院、来春の開院が待たれます（10月）



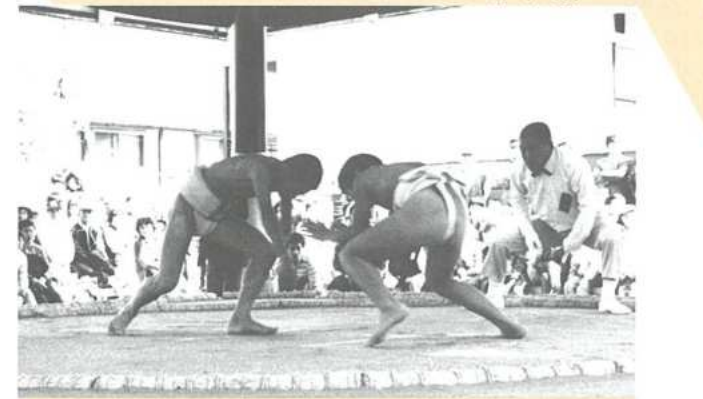
都市型犯罪に対応し県民の安全を守る県内17番目の盛岡西警察署（11月）



お年寄りたちが生きがいのある生活と活動ができる全国初の桐の郷（4月）



本県漁業の歴史と未来を展示し、楽しみながら学習もできる県立水産科学館（4月）



武道の振興と県民の健康増進に期待が集まる県営武道館の相撲場と弓道場（10月）

を目指す一関市テレピア推進会議が発足しました。

25日、東北横断自動車道秋田線の北上～和賀、湯田～横手間のうち本県分の13.1kmの路線発表が行われ、建設に大きく前進しました。

27日、開業4年目で予想外に早く、新幹線利用客が1億人を達成しました。

7月 1日、花巻市に進出する東和精機株式の立地協定調印式が行われました。また8日には、39年4月開業以来、23年目で花巻空港の乗降客が200万人を達成しました。同じ日海洋型として県内ではじめての船越家族旅行村が、下閉伊郡山田町船越に沿岸部の新しい観光

拠点としてオープンしました。

10日、県内のトップを切って釜石市の根浜海岸で海開きが行われました。沿岸部の旅館やホテルは、夏休み期間中の予約客で一杯になりました。7月下旬から8月下旬にかけて、三陸鉄道に白浜海岸駅と十府ヶ浦駅の2つの季節駅が誕生しました。

24日、東北自動車道の請願インターとして、紫波、松尾八幡平に次いで東北自動車道花巻南インターチェンジが開通しました。

異常低温下の県内水稲は、生育が停滞し、農業関係者を心配させましたが、28日のつゆ明け以来の高温により生育が回復しました。

なった県高度技術振興協会が発足し、年度内指定へ向け動き出しました。

62年操業を目指し、釜石市に日本とヨーロッパの合弁新会社が、設立されることに決定したのは20日です。

25日、松くい虫被害を防除し、赤松林の保護育成を図るため、県松くい虫被害対策推進大綱が決定されました。

9月1日の防災の日を前に、30日釜石市で陸・海・空一体となった県総合防災訓練が本番さながら大がかりに繰り広げられました。

中央市場で好評のレタス、リンドウをはじめとする「いわてもの」が販売数量で大幅な伸びを示しました。

9月 1日、日本地下石油備蓄株式の久慈事業所の開所式が行われ、年内着工に向け発進しました。

大船渡市と気仙郡三陸町を結ぶ国道45号線の新三陸トンネルが着工したのは3日です。

8日、明年3月開院を目指し、医療充実の願いを込めて県立中央

病院の定礎式が行われました。

19日、県内のトップを切って一関地方で稲刈りが始まりました。

県内の企業倒産は円高や構造的不況により負債額は1月～9月までで(株)新興製作所などの大口倒産の影響によって433億円と59年の年間負債額を上回り年間最悪更新となりました。

10月 1日、県が国鉄から受け入れる予定者77人に対する国鉄職員

実務研修生に辞令が交付されました。またこの日技術パイオニア養成事業がスタート、海の向こうの韓国で開催されたアジア競技大会レスリングで本県出身選手の長内清一選手、陸上1,500mで大志田秀次選手がそれぞれ優勝しました。

7日、8ルート12路線の一つ県北横断道（久慈～九戸間）が完成し、県北沿岸地域間の時間距離が大幅に短縮され、人的物的交流の

まつり旗上げ式で三陸の海をPRしたのは6日のことです。

8日、山形村の大規模林道細谷地～日野沢区間が完成しました。

10日、多くの観光客でにぎわった古都平泉を舞台に繰り広げられた800年特別大祭が幕を閉じました。

27日、地滑りのため遅れていた東北自動車道八戸線一戸～八戸間の開通式が行われました。当初計画よりおよそ1カ月遅れの開通となりましたが、所要時間は従来より1時間ほど短縮され、地域振興に果たす役割に期待が集まりました。

12月 1日、21世紀を展望した戦略的プロジェクトの一つマリノゾーンプランを積極的に実施するため、海洋開発対策室を設置しました。

県民の健康の保持増進を図るため、健康状態のチェックや食生活にかかわる栄養指導、健康に関するデータを搭載した健康増進車が配備されることになっています。県内各地域や事業所などを巡回して県民の健康づくりの確保につとめることでしょうか。

「いわてもの」中央市場で高い評価

8月 林業、木材産業の活性化を目指して県木材需要拡大会議が4日に設立されました。7日、栽培漁業センターで、ヒラメの稚魚15万匹が放流されました。4日、5日にかけての大雨の被害は、145億円にものぼり、過去10年間では、

50年に次ぐ2番目の被害額となりました。

11日、花巻市に移転、新築される県立総合教育センター工事の安全祈願祭が行われました。

19日、北上川流域テクノポリス構想の核となる産・学・官一体と

地域活性化の大動脈県北横断道開通

活発化に期待が集まりました。

9日、九戸村に県北初の本格かんがい用ダムとして瀬月内ダムが完成しました。この日岩手山に13日昨年より5日早く初冠雪を記録しました。県営武道館の相撲場、弓道場が落成したのは19日です。

23日、水産振興に向けて秋サケ、ウニなど4部門計画が、県水産審議会です承されました。

24日、全国肉牛枝肉共助会で県産牛が、初めて最優秀賞受賞など好成績を収めました。

県内水稲は、15日現在の作況指数が107の良と発表され3年連続の豊作が確定となりました。

11月 1日、都市型犯罪に対応して、盛岡西警察署、盛岡東警察署がそれぞれ新たなスタートを切りました。

5日、今年最初のアワビの口開けが行われ、豊漁に浜は活気づきました。

世はグルメブーム、冬の三陸海岸の通年観光を目指そうと、沿岸14市町村が参加して陸中海岸味覚